

「現代アート」鑑賞のはじまり

1 題材設定の理由

鑑賞授業では評価の定まった答えのあるような作品ばかりを鑑賞しがちである。現代アートを鑑賞する時に決められた答えなどない。現代という時代は、多様な価値観による多様な生活様式により多様な感性の人間を作り出した。現代に生きる私たちは何か共通の答えを失った。現代アートの状況もこれに同じ。現代アートを鑑賞する時、はじめから共通の答えは決っていない。それでは、現代に生きる私たちにできることとは何であろうか。それは話し合うことではないだろうか。いまを共に生き、いま目の前にあるものについて会話することによるしか共通の答えを獲得できないのではないだろうか。

生徒たちは学校で図版やビデオを見ながら鑑賞授業に取り組んでいるが、今回は美術館で直接作品を見ながらの鑑賞授業を設定することができた。また特別に横浜美術館との協力により、現代に生きる美術家が鑑賞授業を引き受けてくれた。授業をお願いした奈良美智さんは、幼い頃の経験や感覚を現在まで持ち続け制作している作家である。また、作品に描かれた女の子は、生徒たちにとって親しみやすく感覚的に作者とコミュニケーションがとりやすいだろうと考えた。新しい出会いと対話、知識・技能から表現へ、そして発表で共有される体験は活動的な鑑賞授業になると考えている。

2 題材の目標

- ・ 感性や創造力を働かせ、作品のよさや美しさなどを感じとったり味わったりする
- ・ 生涯にわたり美術に親しみ愛好する心情を育てる
- ・ 美術館の利用の仕方、マナーを身に付けさせる
- ・ 記述とディスカッションによるコミュニケーション能力を育てる

3 評価について

- ・ 美術への関心・意欲・態度
主体的に鑑賞の活動に取り組み美術を愛好している
- ・ 発想や構想の能力
作品から感じたこと、考えたこと、夢や想像などから主題を発想し、創造力を働かせ構想を練ることができる
- ・ 鑑賞の能力
現代アートの多様な表現のよさや美しさなどを味わい、作品に対し自分の価値意識を持って批評し合ったり、記述したりして見方を深めることができる

4 準備

教師 ワークシート

生徒 筆記用具

5 学習の展開

学習の流れ	学習活動	指導と評価
導入 1 10分	・ 本時の目的について理解する	授業者；ワークシート配布し、本時の目的について説明する
導入 2 10分	・ 鑑賞マナーの再確認をする ・ 本時の課題について理解する	美術館職員；鑑賞マナーの確認をする 奈良；例を示しながら、課題を説明する 奈良；絵は部分やメモ程度でよいと指導し、作品を選ぶ範囲と時間を指示する
展開 35分	・ 鑑賞しながら4つの作品を選び、ワークシートに作者名、作品名を書き、簡単なスケッチを描く ・ ワークシートにお話を創作する ・ 奈良さんまたは教師にアドバイスをもらい、発想を生かしたお話にする	奈良・教師；生徒の発想を大切にし、話のつながりや展開を考えさせる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">主体的に授業に取り組み、想像力を働かせ構想を練ることができる</div>
まとめ 5分	・ 自他の選んだ作品と創作したお話の発想を学ぶ	教師；集合の指示をする 奈良；数名に選んだ作品やお話を発表させ、自他の発想に気づかせるようにする <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">作品のよさや美しさを味わい、見方を深めることができる</div>

6 考察

(1) 美術館を利用した授業

美術館での鑑賞授業の形態を考えると次の三つが考えられる。

- ア 教師が生徒と鑑賞授業をする
- イ 教師は観察者となり、美術館職員に任せる鑑賞授業
- ウ 教師と美術館職員と共同で鑑賞授業をする

一般的鑑賞授業の形態は「教師が鑑賞の授業をする」と考えがちであるが、教師は生徒の新鮮なまなざしから発せられる言葉に耳を傾けたい。一方的な教師側の価値や知識を教え込むのではなく、対話による価値の共有でありたい。したがって、必ずしも教師が授業者でなければならないという事はなく、学校外の人材を使った授業を企画・運営するという考え方も必要である。今回の授業は横浜美術館展示室と展示作品を使い、その上に作家を招待するという予定外の企画となった。美術館で授業をする場合は美術館職員との協力が大切だということを思い知らされた。

(2) 「現代アート」鑑賞のはじまりに

今回の鑑賞授業の打ち合わせで、奈良さんは絵の苦手な生徒達のことを気遣っていた。また、提出されたアイディアは鑑賞から発想や構想をもとにお話をつくるというもので、この授業後も続けられるような内容で驚かされた。この授業は、鑑賞から表現活動に結びつける授業実践と見ることもできるであろう。